

運動好きの子どもをめざして、オリンピック、レクリエーション協会の人、地域の人など様々な人との関わりの中で運動することの楽しさを児童に体験させる取組

学校名 岩国市立周北小学校（山口県）

全校児童数 7名（男子3名 女子4名）

（本実践に係る問合せ先）

電話番号 0827（86）0212

学校メールアドレス

shuhoku-e@edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp

#### 1 実践（研究）のねらい

- （1）友だちや保護者・地域の人と運動遊びやパラスポーツを一緒に行うことを通して、運動が好きという児童を増やし、体を動かすことの楽しさを感じることができるようにする。
- （2）オリンピックによる指導を受けることによって、陸上運動系に関する技能の向上を図るとともに、運動や体力向上についての意欲を高める。
- （3）地域の人とともにパラリンピック選手の生き方を考える学習を通して、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。

### ○課題を解決するために実践した具体的な取組について

#### 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

##### （1）運動遊びの充実

###### ①山口県レクリエーション協会による運動遊びやパラスポーツの実施（3回）

ボッチャやラダーゲッター等の運動遊びを紹介してもらい、教職員を含めた全員で楽しく取り組んだ。実施後も、児童にALTを誘って休み時間にボッチャをするよう働きかけるなど、多くの人と関わりながら運動遊びを楽しむことができるよう配慮した。

###### ②ふれあい参観日における保護者や地域の人とのボッチャによる交流

児童が、保護者や地域の人にボッチャがパラリンピック種目であることや競技方法・ルールについて説明をしたのち、児童の審判によるゲームを行った。

##### （2）オリンピック（成迫健児選手：ハードル）による陸上教室（修成小学校と合同実施）

・「夢へのチャレンジ」という演題での講演の後、クラウチングスタートやハードル走の基本的な動作についての指導を受けた。

##### （3）保護者や地域の人と一緒に学ぶ「I'm POSSIBLE：パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう」の実施

・パラリンピックの価値である「勇気」「強い意志」について互いに意見を述べ合った。

### ○成果の意義

- 1 様々な人と関わりながら数多くの運動体験を積むことによって、運動の楽しみ方を知り、運動に対してより積極的に取り組もうとすることができるようになった。
- 2 校内放送でパラリンピックの種目について紹介することを児童が提案して行うなど、オリンピック、パラリンピックに対する興味・関心が高まってきた。

### ○今後の課題

- 1 少人数の中であっても運動遊びを継続して行うことができるよう運動環境の整備を引き続き行っていく必要がある。

## ○ 研究内容

### 【レクリエーションをみんなで楽しもう】

ラダーゲッターやポッチャなどに取り組みました。



### 【保護者や地域の人とポッチャを楽しもう】

児童が中心となってゲームの運営を行いました。



### 【オリンピック成迫選手から学ぼう】

ハードル走を1～6年生までが挑戦しました。



### 【保護者や地域の人と一緒に学ぼう】

香西選手の生き方について、年齢を越えて話し合いました。



### 【活動後の児童の感想】

#### 【オリンピック成迫選手から学ぼう】

- ・前までは、ハードルが怖かったけど、教えてもらううちに少しも怖くなくなりました。これからもぼくもがんばるので、成迫選手も頑張ってください。
- ・私はいつもタイムばかり気にして、跳び方なんてメチャクチャでした。まず股を上げる練習をしてから跳ぶとうまく跳べました。今度の陸上記録会までには、練習をたくさんして、もっと上手になりたいです。

#### 【保護者や地域の人と一緒に学ぼう：香西選手ってどんな人だろう】

- ・自分に何かがなくても、信じればいつかできるようになる。新しい課題をどんどん見つけたい。
- ・「やりたいことに100%の力を注ぐ！」という気持ちは本当に大切だと思います。
- ・あきらめずに勉強やスポーツをやりたいです。

### 【今後の取組について】

地域との連携を図りながら運動を好きな児童を増やしていく

- ・学校生活の中（体育・休み時間等）で、ポッチャや運動遊び等を継続して行い、運動することの楽しさを児童に感じさせていきたい。
- ・年齢、体力等に関係なく実施できるポッチャを、地域でのスポーツとして定着できるよう社会体育等との連携を視野に入れたい。